

横浜市磯子区生活支援センター 平成25年度事業報告書

平成18年11月に開所した当生活支援センターは、7年目を迎えました。今年度より新たに「指定特定相談支援事業所」の事業所指定を受け、これまで区役所で行ってきたサービス等利用計画の作成等の「計画相談支援」業務を導入することにより、相談機能を強化し、地域の精神保健福祉の更なる充実を図りました。

【施設の方針】

磯子区生活支援センターは、日常生活の支援を通し、一人ひとりが「あんしん」や「つながり」を実感できるような地域づくりを目指します。

【平成25年度の重点事業】

上記の方針に基づき、次の3点に重きを置き、事業を実施しました。

1 「基本相談支援」の充実

(1) 来館している当事者に対して

スタッフの側から積極的に声をかけ、来館時やプログラム時の様子から生活上の変化について注意を払いました。継続的な支援が必要な方については、「個別支援計画」を作成し、支援方針を共有しました。

(2) 来館が困難な当事者に対して

来館が困難な当事者に対しては、これまでも訪問支援を行ってきましたが、更に多くの方との「つながり」を実現するよう積極的に訪問支援を進めました。また、定期的に訪問を行う方については、「個別支援計画」を作成し、支援方針を共有しました。

SOSの発信が苦手な方もいるため、来館が遠のいた区内在住の登録者については、当生活支援センターの側から積極的に連絡を取り、必要な支援を行いました。

2 「計画相談支援」の導入（新規）

障害者総合支援法内のサービスを利用する当事者の希望に応じ、「サービス等利用計画」を作成し、その後も一定期間ごとにモニタリングを行いました。

3 うつ病に関する事業の継続

依然として、うつ病に関する相談が多く寄せられていることから、引き続き、うつ病に関する事業を開催しました。

(1) うつ病 「当事者交流会」

うつ病を抱える当事者が集まり、「日々の思いを語り合える場」「情報交換ができる場」として毎月、開催しました。

(2) うつ病 「家族交流会」

うつ病を抱える当事者のご家族が「自分の気持ちを語れる場」「思いを共有できる場」「情報交換ができる場」として毎月、開催しました。

【事業の実施状況】

利用者登録状況

(平成26年3月末現在)

登録者数	1,090人
男女別内訳	男性 600人 女性 490人
居住区	磯子区 472人・金沢区 174人・南区 100人・港南区 90人 中区 55人・その他市内 163人・市外 36人
年代別	29歳以下 88人・30歳代 224人・40歳代 400人 50歳代 224人・60歳以上 154人
平均年齢	男性 46.3歳 女性 45.4歳 全体 45.9歳

1 相談支援

住みなれた地域で日々安心して自分らしい生活が送れるよう、当事者をはじめ、ご家族、関係機関スタッフ等の相談に対応しました。継続した支援が必要なケースについては、「個別支援計画」を作成し、支援方針を共有しました。また、必要に応じて、区福祉保健センターや医療機関等の関係機関との連携を図り対応しました。

(1) 電話相談

受付時間 9時から21時まで (平成26年3月末現在)

電話相談	11,724件	(1日平均 33.2件)
------	---------	--------------

(2) 面接相談

受付時間 9時から21時まで (平成26年3月末現在)

面接相談	4,776件	
・面接室相談	885件	(1日平均 2.5件)
・生活場面相談	3,891件	(1日平均 11.0件)

(3) 訪問・同行

来館が困難な利用者には自宅を訪問したり、受診同行が必要な利用者に対して、医療機関に同行する等、必要に応じて訪問・同行支援を行いました。

(平成26年3月末現在)

訪問・同行	233件	(1ヶ月平均 19.4件)
-------	------	---------------

(4) 嘱託医相談

精神科 月3回

内科 月1回

(平成26年3月末現在)

実施回数	48回	
相談者数	38人	(男性9人・女性15人・家族等14人)

2 場の提供

利用者に「過ごす場」を提供するとともに「各種のプログラム」や「サークル活動の場」を提供しました。いずれも活動を通じて、「何かに取り組むことの楽しさ」や「利用者同士の交流の場」を提供することを主目的としました。

(1) 過ごす場の提供

開館時間 9時から21時まで (平成26年3月末現在)

居場所提供(来館者)	9,168人	(1日平均 26.0人)
------------	--------	--------------

(2) 各種プログラムおよびサークル活動

参加者一人ひとりが、他者との「つながり」を感じられるように展開しました。また、利用者の希望に応じ随時、新たな活動も展開していきます。

(平成26年3月末現在)

プログラム・サークル名	目的・内容	回数	参加人数
統合失調症の「当事者学習会」	統合失調症を抱える当事者の学習の場や交流の場	8	38
うつ病の「当事者交流会」	うつ病を抱える当事者の学習の場や交流の場	12	33
書道教室	書を通じて、何かに取り組むことの楽しさを味わう	12	51
女子会	女性だけで集まり、茶話会や創作活動などを行なう	12	23
歌声広場	ギターやピアノの伴奏のもと、皆で合唱をする場	12	15
カフェ	飲み物を飲みながら参加者同士の会話を楽しむ場	51	448
就労者の会	就労中の当事者の交流の場・支え合いの場	6	29
昼食会	参加者で調理をしたり、皆で食事を摂る楽しみを味わう	11	104
利用者ミーティング	センターや日々の生活に関する意見交換・情報交換の場	12	95
運営報告会	利用者に対し、施設の運営状況を報告する場	2	19
季節行事	花見やクリスマス会などを開催し、季節感を味わう	8	57
地域行事への参加	夏祭りなど、地域の行事に参加し、地域との交流を図る	2	6

(3) 当事者活動

ピア活動に関して、より一層、職員の理解を深めるため、勉強会への参加や他施設見学等を行いました。

「ピア活動の実践」のために、利用者に向けて、ピア活動の紹介を目的とした「ピア講座」を実施しました。

特に自主活動を開催しているグループについては、継続、発展できるよう必要な支援を行いました。

(平成26年3月末現在)

かたつむりの会	隔週金曜日	夜間開催	41回開催	103人参加
---------	-------	------	-------	--------

3 各種サービスの提供

利用者が生き生きと地域生活を送ることができるように、各種のサービスを提供しました。

(1) 夕食サービス

1回 400円程度

申込受付 前日から当日の15時まで

(「月間注文表」であらかじめ注文することも可能です)

(平成26年3月末現在)

夕食サービス利用者	4,942人	(1日平均 14.0人)
-----------	--------	--------------

(2) 入浴サービス

1回 100円

(平成26年3月末現在)

入浴サービス利用者	1,193人	(1日平均 3.4人)
-----------	--------	-------------

(3) ランドリーサービス (洗濯機と乾燥機の利用)

1回 100円 (両方の使用で100円)

(平成26年3月末現在)

ランドリー利用サービス利用者	206人	(1日平均 0.6人)
----------------	------	-------------

(4) インターネット・印刷サービス

10分10円 ・ 1枚10円

(平成26年3月末現在)

インターネットサービス利用者	644人	(1日平均 1.8人)
----------------	------	-------------

4 家族支援

当センターでは、ご家族と同居している利用者が多く、ご家族からの相談も多く寄せられるため、通年でご家族に対する支援を行いました。

(平成26年3月末現在)

事業名	目的・内容	回数	参加人数
統合失調症の「家族教室」	統合失調症の当事者を家族に持つ方の学びの場・交流の場 (区役所、家族会、支援センター3者共催)	4	101
うつ病の「家族交流会」	うつ病の当事者を家族に持つ方の語りの場・交流の場	12	39

※また、なぎさ会 (家族会) の例会や総会に職員が参加し、ご家族のご意見をお伺いすると共に情報交換を行いました。

5 広報・啓発活動

地域の方々に精神障害に関する理解を広めるとともに、当センターの機能や事業内容を周知し、利用促進を図りました。

(1) 地域ケアプラザとの連携

区内の地域ケアプラザにおいて講演会等を行い、「精神障害に関する理解」を広めるとともに生活支援センターの機能の周知を図りました。

(平成26年3月末現在)

ケアプラザ名	開催日	講座テーマ	参加人数
上笹下CP	7月31日	精神障害について	32
	9月4日	統合失調症について	24
	10月24日	うつ病について	15
根岸CP	7月23日	統合失調症について	10
	11月14日	うつ病について	12
屏風ヶ浦CP	11月29日	精神障害について	3
合計			96

※根岸ケアプラザでは、隔月で「心の健康相談室」を開催し、地域の方々の相談に対応しました。

(2) 「7周年記念イベント」

屏風ヶ浦地域ケアプラザと共催の記念イベントを行い、「精神障害に関する理解」を広めるとともに生活支援センターの機能の周知を図りました。

11月10日(日) 10時~15時 約400人来館
(屏風ヶ浦地域ケアプラザ文化祭と同日開催)

(3) 「生活支援センターだより」

「生活支援センターだより」を毎月発行し、市内の関係機関(医療機関・作業所・グループホームなど)に配布しました。また、ホームページ上でも閲覧できるようにしました。

毎月 発行

(4) 機関紙「うえるかむ」

機関紙を年一回発行し、地区センターや地域ケアプラザなど、区内の施設に設置しました。また、区内全域の回覧版を活用し、「統合失調症ってどんな病気？」を広めると共に「生活支援センターの機能の周知」を図りました。

11月 磯子区内全自治会町内会に班回覧を実施

6 地域移行・地域定着支援事業

精神科病院に入院している方に対して、入院が長期化しないように病院を訪問し、退院に向けた支援を行いました。また、退院後も安心して地域での生活を送ることができ、再び入院することがないように保健・医療・福祉が連携して必要な福祉サービスが受けられるよう支援をしました。

(平成26年3月末現在)

支援対象者	8名 (支援中4名・退院後フォロー中4名)	
支援件数	891件(電話、面接、訪問、同行等)	
啓発活動	日野病院院内プログラム職員参加(8回)	
	地域移行南部ブロック病院向け事業説明会	18名参加
	日野病院入院者、職員対象社会資源説明	73名参加
	横浜舞岡病院入院者、職員対象社会資源説明	55名参加

7 計画相談支援事業

障害者総合支援法上の福祉サービスの利用を希望している方に対し、サービス等利用計画を作成し、一定期間ごとにサービス利用に対するモニタリングを実施しました。

(平成26年3月末現在)

支援対象者	30名 (契約者19名・契約前者7名・終了者4名)
支援件数	520件(電話、面接、訪問、同行等)

8 自立生活アシスタント事業

単身等で生活する精神障害者が安定した生活を送れるよう、訪問による生活支援や家族・近隣・職場等との連絡調整を的確に行いました。また、地域生活を支えるために、地域の資源やサービスの実施機関等と連携して支援体制を作りました。

(平成26年3月末現在)

支援対象者	20名 (新規登録者7名・前年度登録者4名・終了者9名)
支援件数	1,739件(電話、面接、訪問、同行等)

9 地域連携・交流の推進

当事者が地域でより暮らしやすい社会にするため、日常的に地域の関係機関・団体や住民の方などとの連携や交流を推進するとともに地域に開かれた生活支援センターづくりを進めました。

(1) 運営連絡会の開催

生活支援センターの運営について種々ご意見をいただき、生活支援センターの運営に反映させて行く場として、運営連絡会を年2回開催しました。

5月28日・11月26日 開催

(2) 関係機関との連携

区自立支援協議会等、関係機関との連絡会議に積極的に参加し、地域課題の把握や情報の共有化を図りました。

区自立支援協議会

区内施設の運営委員会（シャロームの家、第2シャロームの家、工房タッチ、楳の木、いぶき、屏風ヶ浦 CP）

連絡会（区精神保健福祉連絡会、さつき寮、発達障害児者ネットワーク連絡会）など

10 事故対策・安全管理

(1) 事故の発生を未然に防ぐため、日頃から安全管理意識を高め、事故等の緊急時には、整備している「安全管理マニュアル」に基づき、迅速かつ的確な対応を目指しました。

(2) 屏風ヶ浦地域ケアプラザと共同で防災訓練を実施しました（2回）。

防災訓練（屏風ヶ浦地域ケアプラザと合同）9月30日・3月24日実施

(3) 横浜市との協定に基づき非常災害時の地域の避難拠点として、備蓄を整備しました。

11 個人情報管理

個人情報の保護とリスクマネジメントの徹底により利用者に信頼と安心の提供を心がけました。当財団においては、「財団の保有する個人情報の保護に関する規定」を制定し、個人情報の適切な取り扱いに関し、必要な事項を定めるとともに、個人の権利・利益を保護するため、定期的に職員研修を行ないました。

なお、登録者台帳等、個人情報があるパソコン、メモリースティック、書類等は、業務終了時に書庫内に収納し、施錠しています。

12 人材育成・資質向上

生活支援センター職員は、常に精神等に障害のある人たちが置かれている現状に問題意識を持ち、研修にも積極的に参加し、資質の向上に努めました。

また、日々の職員会議や月1回の職員全体会議において、利用者の状況を常に把握し、必要に応じ、ケースカンファレンスの開催や個別支援計画の作成を行いました。

13 苦情の解決

生活支援センターは、その提供したサービスに関するご利用者又はご家族等からの苦情については苦情受付の窓口を設置し、迅速で適切な解決を図りました。

また、利用者ミーティングの開催やフリースペースに設置している意見箱等を通じて、利用者からの意見に耳を傾けて、センターの運営に反映させました。

横浜市精神障害者生活支援センター 平成25年度 利用状況及び支援内容

(1) 利用状況及び支援内容

(人)

(日)

全体	内訳					
	本人(男性)	本人(女性)	家族	ボランティア等	電話	訪問同行
21,912	5,617	3,551	450	337	11,724	233

開所日数
353

(2) 相談支援

ア 相談支援

(人)

合計	電話		面接		訪問・同行		面接(非構造)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
16,733	6,220	5,504	504	381	136	97	2,302	1,589
1日平均	33.2		2.5		0.7		11.0	

イ 嘱託医相談

(人)

嘱託医相談(精神科・内科)				
実施回数	合計	男性	女性	家族等
48回	38	9	15	14

(3) 生活支援

(人)

食事サービス			入浴サービス			洗濯サービス		
合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
4,942	3,183	1,759	1,193	488	705	206	176	30
1日平均	14.0		1日平均	3.4		1日平均	0.6	

(人)

インターネットサービス		
合計	男性	女性
644	211	433
1日平均	1.8	

(4) 利用登録内訳

ア 男女別・年齢別

(人)

(歳)

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
男性	3	43	109	226	135	84	600
女性	1	41	115	174	89	70	490
合計	4	84	224	400	224	154	1,090

最高	最低	平均
87	16	46.3
83	19	45.4
87	16	45.9

イ 区別内訳

(人)

鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子	金沢
6	17	3	55	100	90	21	15	472	174
港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷	市外	合計
11	11	6	5	26	21	13	8	36	1,090

(5) 自主企画事業

スタッフが企画をしているプログラム以外に利用者と一緒に作り上げていくプログラムや、利用者が中心になって企画運営を行うサークル活動等を実施しています。

名 称		回数	参加人数 (人)
プログラム・行事・サークル	統合失調症の「当事者学習会」	8	38
	うつ病の「当事者交流会」	12	33
	書道教室	12	51
	女子会	12	23
	歌声広場	12	15
	カフェ	51	448
	就労者の会	6	29
	昼食会	12	104
	利用者ミーティング	12	95
	利用者向け「運営報告会」	2	19
	ピア講座	1	5
	季節行事 (初詣、お花見、夏祭り、年賀状づくり等)	10	63
	7周年記念「文化祭」(屏風ヶ浦地域ケアプラザと合同)	1	400
かたつむりの会 (当事者ミーティング)	24	103	
その他	運営連絡会	2	42
	防災訓練 (屏風ヶ浦地域ケアプラザと合同)	2	11
合 計		179	1,479

(6) 地域交流

地域の関係機関、団体との連携や交流をしています。

(人)

名 称	派遣職員延数
根岸地域ケアプラザでの相談会	6
ボランティア講座（区社協との共催）	6
区内施設の運営委員会、連絡会	11
講師派遣（地区センター職員研修、ヘルパー連絡会など）	7
その他、地域との交流（賀詞交換会、自治会など）	5
合 計	35

(7) 地域会議等

地域の会議に参加し、課題の把握や情報の共有を行っています。

(人)

名 称	派遣職員延数
磯子区自立支援協議会	6
なぎさ会（家族会）	11
その他（発達障害連絡会、ボランティア会など）	4
合 計	21

(8) 家族支援及び地域支援事業

統合失調症の方のご家族、うつ状態の方の家族への支援及び地域住民への普及啓発を行っています。地域住民向けの普及啓発では、地域ケアプラザの協力を得て開催することができました。

名 称	回数	参加人数（人）
統合失調症の「家族教室」（区役所・家族会との共催）	4	101
うつ病の「家族交流会」	12	39
ボランティア講座（区社協との共催）	3	30
地域ケアプラザとの共催講座（うつ病・統合失調症・精神障害）	6	96
合 計	25	266

(9) 普及啓発

毎月発行している「センターだより」とは別に、広報紙「うえるかむ」を区内の自治会・町内会回覧、地域ケアプラザ、地区センター等へ配布し、地域住民への普及啓発に取り組んでいます。

(10) 地域移行・地域定着支援事業（指定一般相談支援事業および横浜市退院サポート事業）

平成25年度から「指定一般相談支援事業所」の指定を受け、障害者総合支援法上の地域移行・地域定着支援事業（指定一般相談支援事業）と横浜市が従来から行っていた横浜市地域移行・地域定着支援事業（通称横浜市退院サポート事業）を実施しています。

◎横浜市退院サポート事業 個別支援

平成25年度は、8人に支援を行いました。支援対象者に延べ645回の支援を行いました。

支援対象者数	病名	帰結	退院後の帰来先
8人	<ul style="list-style-type: none"> 統合失調症 5人 その他 3人 	<ul style="list-style-type: none"> 支援継続 8人 (内退院後支援4人) 支援終了 0人 (内退院 0人) 	<ul style="list-style-type: none"> アパート設定 2人 GH設定 2人

◎啓発事業

横浜市退院サポート事業南部ブロックの各生活支援センターと協働し、事業説明等の啓発事業を行いました。

対象病院	対象者	内容	実施機関	参加人数
横浜市退院サポート事業南部ブロック病院	各病院職員	事業説明・意見交換	横浜市退院サポート事業南部ブロック (港南区、保土ヶ谷区、栄区、磯子区生活支援センター)	18人 (参加病院：横浜舞岡、日向台、常盤台、港北、横浜丘の上、保土ヶ谷)

◎生活訓練係、各区の関係機関と協働し、日野病院、横浜舞岡病院で当事者や職員を対象とした啓発活動を行いました。

日野病院	入院者、職員	社会資源の紹介 事業説明	日野病院、港南区、港南区・磯子区生活支援センター、かるがもの家、ハイツかもめ	73人
横浜舞岡病院	入院者、職員	社会資源の紹介 事業説明	横浜舞岡病院、戸塚区、戸塚区生活支援センター、横浜市退院サポート事業南部ブロック	55人

◎日野病院との協働活動

日野病院との協働活動として、退院を目標とした院内プログラムに支援センター職員が参加し、制度や社会資源の紹介等を行いました。

対象者	プログラムの目的	実施回数	平均参加人数
日野病院 長期療養病棟入院者	退院の動機づけを目指す	8回	12人(延参加人数 96人)

社会資源の紹介、生活スキルの獲得を目指した内容

◎地域移行・地域定着支援事業 個別支援【再掲】

平成25年度は、1人に支援を行いました。支援対象者に延べ108回の支援を行いました。

支援対象者数	病名	帰結	退院後の帰来先
1人	・統合失調症 1人	・退院 1人	・グループホーム 1人

(11) 計画相談支援（指定特定相談支援事業）

平成25年度から「指定特定相談支援事業所」の指定を受け、地域で生活する当事者が福祉サービスを利用する際のサービス等利用計画の作成をしています。

契約	契約前	契約終了
19人	7人	4人

(12) 横浜市障害者自立生活アシスタント事業

単身等で生活する方を対象に、アウトリーチ（訪問）によるマンツーマンの生活支援を展開しました。施設の専門性を活かし、利用者の障害特性を踏まえた社会適応力・生活力を高めるための支援を展開しました。「自分にあった片づけ方を知り、生活空間を居心地よくしたい」「金銭管理の仕方を工夫したい」などの個別のニーズに柔軟に対応しながら、地域のサービスへの橋渡し、支援ネットワーク作りなどを行いました。本人の強み（長所）を活かし、本人にとってより自分らしい生活を目指しています。

平成25年度 自立生活アシスタント事業 利用者の状況

新規登録者(7人)		実利用者(20人)		終了者(9人)	
在宅から 7人	サービス利用 (重複利用有) ヘルパー 0人 訪問看護 2人 デイケア 1人 作業所 1人 ショートステイ 1人	25年度利用者 20人 (利用者延べ数4712人)	在宅 7人	サービス利用 (重複利用有) ヘルパー 3人 訪問看護 1人 作業所 1人	入院 0人
入院 0人			入院 2人		

本表は25年度中における登録、利用、終了の状況を示したものである。したがって利用者及び終了者は25年度中の登録者とは限らない。

25年度利用者の状況、支援方法・内容

〈世代別・男女別〉 (人)

	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	0	0	2	1	1	4
女性	0	1	8	4	3	16
合計	0	1	10	5	4	20

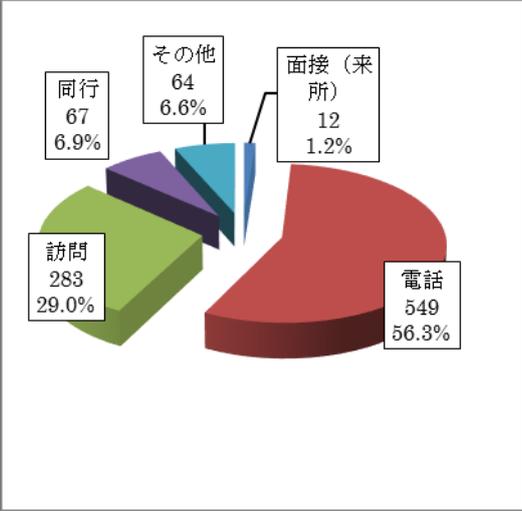
〈利用目的〉 (人)

①自立生活 (②以外)	②自立生活 (同居家族高齢化・死亡)	③退所後の 生活安定	④退院後の 生活安定	⑤その他	合計
14	2	3	1	0	20

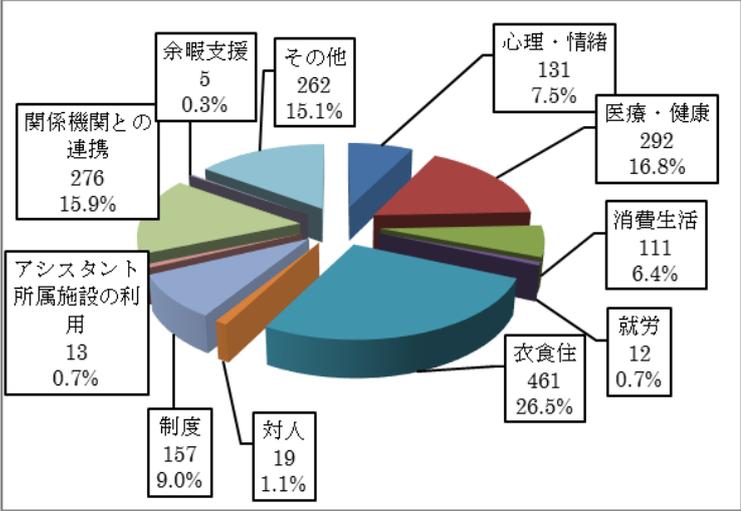
〈世帯状況〉 (人)

家族同居	単身	合計
3	17	20

支援方法(975件)



支援内容(1,739件)



平成25年度磯子区生活支援センター指定管理料収支決算書

自平成 25 年 4 月 1 日

至平成 26 年 3 月 31 日

(単位 円)

科目		予算額	決算額	差 額	備 考
I 収入の部					
	1 指定管理料 収入	64,865,000	64,865,000	0	
A	2 利用料収入(給付費)		344,916	△ 344,916	
収入合計		64,865,000	65,209,916	△ 344,916	
II 支出の部					
戻入精算 B	1 人件費	56,225,000	56,334,486	△ 109,486	
	所長	3,743,000	3,629,430	113,570	
	常勤職員	26,449,000	28,553,179	△ 2,104,179	
	非常勤職員	12,349,000	13,562,605	△ 1,213,605	
	アルバイト	2,350,000	1,074,562	1,275,438	
	調理アルバイト	2,406,000	2,357,250	48,750	
	嘱託医賃金	1,008,000	252,000	756,000	
	法定福利費	6,028,000	6,704,604	△ 676,604	
	退職金給与引当金	1,700,000	0	1,700,000	
	福利厚生費	54,000	61,500	△ 7,500	
	労務厚生費	138,000	139,356	△ 1,356	
2 施設管理費	4,530,000	4,315,509	214,491		
光熱水費	1,634,000	1,799,913	△ 165,913		
庁舎管理費	2,698,000	2,701,266	△ 3,266		
修繕積立金	300,000	0	300,000		
利用者負担金充当金	△ 102,000	△ 185,670	83,670		
3 運営費	4,110,000	3,865,639	244,361		
旅費	415,000	465,820	△ 50,820		
消耗品費	916,000	989,466	△ 73,466		
印刷製本費	126,000	104,843	21,157		
修繕費	300,000	115,185	184,815		
通信運搬費	538,000	651,401	△ 113,401		
賃借料	401,000	364,536	36,464		
備品等購入費	883,000	765,660	117,340		
保険料	110,000	101,880	8,120		
雑費	421,000	306,848	114,152		
4 本部繰入金	0	0	0		
支出合計		64,865,000	64,515,634	349,366	
III 戻入精算					
A 利用料収入合計の15%				51,737	
B 人件費戻入精算分				0	
戻入合計				51,737	